

実践年度・タイトル		平成（29）年度 10月24日実施 小学校の通常の学級と家庭を結んだ継続的遠隔コミュニケーションの実践
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	単元・題材名	学級活動
	授業の目標	学校行事のクラスの出し物について、話し合い活動をしよう。
	観点別学習状況の評価の観点	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他（ ）
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (4)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input checked="" type="checkbox"/> その他
	子供の課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性-衝動性 <input checked="" type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 対象児は夏休みに頭部形成手術を行い、2学期の間は自宅で療養中である。 ICTを活用して遠隔コミュニケーション授業を行うことで、学校生活における友だちとのコミュニケーションの空白を最小限に抑える。 これは、対象児が復学する際の不安の軽減にもつながると予想される。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像	「OriHime」、音声マイク、授業用ノートPC、ポケットWi-Fi 
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input checked="" type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援 ( <input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援 ( <input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) 学校行事で取組む、「なかまづくり集会」のクラスの出し物「宝探し」について、遠隔で話し合い活動に参加する。
授業に授業展開支援	授業展開と画像	1. クラスの出し物の内容についてグループで話し合う。 2. 話し合ったことを発表する。 3. まとめる。 4. クラスの出し物の準備をする。  
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	学校全体で取り組む学校行事「なかまづくり集会」の中、各クラスが1つ出し物をする。当クラスは『宝探し』に決まった。宝探しについて各班に分かれて話し合い活動を行った。始めに、「宝物は何にするか？」をクラス全体で意見を出し合った。「OriHime」を活用して、意見を発表したり、多数決をとるときに手を挙げて参加することができた。多数決で宝物は折り紙で作ることが決まり、その後は班に分かれて、それぞれの班で折り紙で作る宝物を何にするか話し合った。同じ班の児童が「OOちゃんは何がいいと思う？」と聞くと、「私はみんなが折れるものがいいと思う。」と答えるなど自然なやり取りが行われていた。また、実際に折り紙を折っているとき、班の児童が作っている最中に、「また今度、OOちゃんが折ったものも見せてね。」など、楽しそうに会話する様子が見られた。